

映画上映会



© Pathe Productions Limited, Channel Four Television Corporation and The British Film Institute 2015. All rights reserved.

物語は、20世紀初頭のイギリス。

当時、女性には投票権も親権さえも認められていなかった。

主人公のモードは夫と息子の三人暮らし。夫と共に、低賃金で劣悪な環境の中、洗濯工場で働いていた。そんな彼女が、あるきっかけで、自らの置かれた境遇に、「今と異なる生き方があるのではないか!？」と疑問を抱くようになり、偶然知人から誘われた女性参政権運動に参加するようになる。しかし、それが発端で、夫から離婚を申し渡され、息子と会うことも禁じられ、勤めていた工場も解雇されてしまう。その後、さらにモードの行動による世間からの冷たい目と育児に疲れ果てた夫は、息子を養子に出してしまった。失意の底に落とされてしまったモードだったが、我が子や未来の希望のために闘い続ける。

これは、実話をもとに作られた、勇気ある女性達の物語である。

「すべての娘たちはこの歴史を知るべきであり、すべての息子たちは胸に刻むべき。」

By メリル・ストリープ

三 二 ト ー ク



ゲスト

人権擁護委員 稲見 和子 さん

演題

「妻・母・労働者の一人三役で41年
働き続けたからこそ分かったこと」

“115名”ご参加いただきました！



「人権擁護委員」について皆さんご存知でしょうか？

知っていると答えた方は1割程度

「民生委員」は、知っている方も多いと思いますが、「人権擁護委員」の認知度は、まだまだ少ないのが現状です。



「人権擁護委員」って何だろう！？

人権擁護委員は、地域の皆さんから人権相談を受け、問題解決のお手伝いをしたり、法務局の職員と協力して人権侵害による被害者の救済をしたり、地域の皆さんに人権について関心をもってもらえるような啓発活動を行っています

「人権擁護委員」になって、セクハラ・DV・離婚・女性問題などさまざまな相談を受けます。

その中で、児童虐待・LGBT・ハンセン病など、多くの差別問題があることを思い知らされました。

今年で10年目を迎えますが、委託される前は、日本電信電話公社(現:NTT)に勤めていました。

働くことの意義として **経済的理由** **人権(勤労の権利)の行使** **社会の一員としての繋がり**

が、私にとって言えることだったと考えています。その中で、労働運動に参加し、人のための活動を展開するようになりました。特に、節目となったことが、「女性差別撤廃条約」との出会いです。

国連の国際条約が、後の人生を変えたと言っても過言ではありません。

しかし、批准から32年経ちますが、まだまだ日本は先進国の中でも遅れているのが現状です。

また、「平等」・「発展」・「平和」この三本柱を胸に活動していますが、世界中では、貧富の格差や戦争が現在もおこっています。今でも、各地で平和行進・集会に参加した際での戦争体験者が語った話は忘れられないものがあります。

人は、一人では生きていけない。平和の下でしか、人権も男女平等も発展しません。

家族の幸せをはじめ、周りの幸せ、国を超えてグローバルな視点で物事を考えていただけると幸いです。



参加者から、多くの感想をいただきました！

- ・平和の上に人権は成り立つということを学んだ【20代女性】
- ・小さな子をもつ母として涙なしでは観られなかった【20代女性】
- ・稲見さんの実体験に基づくお話がきけてよかった【30代女性】
- ・参政権について、もっと考えてみようと思った【30代女性】
- ・言葉にならないが、とても感動した【30代女性】
- ・考えさせられた映画でした。もっと多くの人に参加してもらいたい。もったいない。【30代女性】
- ・すべて、平和であってこそ。私も講師と同じ意見だったのでうれしく思う。【50代女性】
- ・先人たちの歴史を知っておかなければならないと改めて感じた。【50代女性】
- ・今回のような明るいだけでなく考えさせられる映画をまた上映して欲しい。【50代女性】
- ・もっとこのような勉強になる映画上映会を増やして欲しい。【60代女性】
- ・これまで当然と思っていた権利は、多くの犠牲の元に成り立っていることを再確認できた。【60代女性】
- ・人権擁護委員の存在を初めて知り、いい話が聴けました。【60代女性】
- ・稲見さんの体験談感動しました。もっと聴きたかった。【70代以上女性】
- ・ミニトーク・上映会とも、とても考えさせられるお話しでした。【70代以上女性】



コムズの“映画上映会”は、内閣府男女共同参画局が
主唱する週間に合わせ、年2回開催しています。



第1回

6月23日～6月29日
「男女共同参画週間」

6月24日(土) 開催済み
13:30～16:10 コムズ5階 大会議室



上映作品

「マイ・インターン」

ゲスト

愛媛県男女共同参画ロールモデル
中村 和憲 さん

©2015 Warner Bros Entertainment Inc. All Rights Reserved.

第2回 今回 開催

11月12日～11月25日
「女性に対する暴力をなくす運動」



ゲスト

人権擁護委員
稲見 和子 さん

© Pathe Productions Limited, Channel Four Television Corporation and The British Film Institute 2015. All rights reserved.

イギリスは、紳士の象徴ともされる国だとイメージされる方も多いのではないのでしょうか？
イギリス王室では、男女に関わらず第一子が王位を継承します。19世紀のヴィクトリア女王は有名ですね。現代では、離婚をした場合、母親が親権者というケースが多くありますが、20世紀初頭では、母親に親権はありませんでした。親権は、法律により定められているため、参政権が認められない当時の女性達は権利を主張することができません。そのような背景から、女性の参政権運動が始まりました。当時は、政府からの取締りが厳しく、言論の自由を奪われた彼女たちにとって過激な行動に走るしかなかったのかもしれませんが・・・。

ちなみに、世界で初めて女性参政権が認められた国は、1893年「ニュージーランド」です。

「イギリス」は、1918年（完全平等は28年）です。「日本」はというと、1945年になります。

先人たちがあってこそ、今日があるのです。今後もコムズの映画会&ミニトークに参加していただき、少しでも何か感じてもらえると幸いです。

次回は、コムズフェスティバルのイベントとして「映画祭」を開催します！

「映画上映会」と「映画祭」は、何が違うの！？



映画上映会は、内閣府の主唱にちなみ企画しておりますが、映画祭は、当センターで掲げる「つなげよう・ひろげよう・男女共同参画の輪」を総合テーマに沿って企画しております。また、映画祭では映画専用のスクリーンを使用するので、臨場感があり見応えがあります！

今回の映画祭の開催は、H30年2月中旬予定！！

「生き方」をテーマにした映画を上映！ また、豪華なゲストを呼んでおります！ 請うご期待！！

